

金剛峯寺

仏教の一宗派である高野山真言宗の総本山は、816 年に高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）によって最初にこの地に創設されました。今日、金剛峯寺は日本中にある 3,600 の末寺を統括しています。聖域の中核にあるこの寺の境内には、見事な襖絵の数々、一度に 2,000 人分の食事が用意できる台所、そして日本最大の石庭である蟠龍庭があります。

この寺は、弘法大師が高野山を開いた時以来、数回の変容をたどってきました。1593 年、豊臣秀吉（1537–1598）という庶民の出自から成り上がり日本を統一した強力な戦国大名が、この寺を現在の金剛峯寺の姿に建て直しました。秀吉はこの寺を自分の母親を弔うための廟に変え、青巖寺と改名しました。この建物は 1863 年に再び建て直され、1869 年に隣接する寺と合併した後、金剛峯寺（diamond peak temple）と名付けられました。過去とのつながりを偲ばせるものの中には、豊臣秀吉の建てた正門と、門の左側の大きな提灯に描かれた豊臣家の桐の紋があります。

高野山の数々の子院、商店、住居が含まれる金剛峯寺の敷地全体が神聖とされています。